

平成 16 年度配分 研究成果の概要

研究名	初期オペラ・ブッフアにおける演劇と音楽				
配分を受けた特別研究費	学長 特別研究費 2,500 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
		文化政策	国際文化	教授	高田和文
共同研究者	文化政策	芸術文化	教授	平野昭	音楽としてのオペラの研究、上演用プログラムの解説記事執筆
		文化政策学部芸術文化学科	教授	伊藤裕夫	舞台上演の広報、運営、地元機関との折衝・協力
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 (年 月 号 発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: 1) 本学講堂における上演、及びシンポジウム 2) 「コンメディア・デッラルテとオペラ」(新国立劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』『道化師』公演プログラム) 3) 「オペラ・ブッフア『焼餅亭主』の上演」(本学文化・芸術センターニューズレター「文化と芸術」第2号)		発表日 (発表予定日)	平成16年9月4日 平成16年9月 平成17年3月	

注：配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

オペラ・ブッフアの作曲家として知られるペルゴレージの未発表の作品(喜歌劇『焼餅亭主』)を本学講堂において上演し、本学学生及び地域の一般市民にオペラの新たな魅力を知ってもらう。また、日本でほとんど知られていない作品の実験的上演により、本学の研究の先進性を専門家・関係者に示す。さらに学術面において、実際の上演を通してこの作品を分析することにより、初期オペラ・ブッフアにおける音楽と演劇の関わりを明らかにする。

(研究の実施方法等)

上演作品はペルゴレージ作曲の『焼餅亭主』であるが、この作品は最近イタリア発見され、イタリアと日本でそれぞれ1回ずつ試演されたのみである。日本では2003年9月に二期会アトリエで上演され、2004年3月には新潟のホール「りゅーとびあ」において『奥様女中』と組み合わせて上演された。本学においては、二期会アトリエ公演と同レベルの上演を行なった。また、上演後に歌手・俳優と演出家を交えてオペラと演劇に関するシンポジウムを開催し、併せて俳優による仮面を用いたデモンストレーション、上演に使用した仮面の展示を行なった。

(得られた成果等)

この作品はまだほとんど知られていないものの、演劇的な要素がふんだんに盛り込まれ、だれにでも楽しめるオペラであり、本学学生及び一般市民に広く受け入れられるものと期待された。実際、講堂における公演には約370名の観客が集まり、日本語字幕なしのイタリア語上演であったにもかかわらず、熱心に観劇をしていた。また、終演後のアンケート調査の結果もたいへん好評だった。また、上演後のシンポジウムではオペラ・ブッフアとイタリアの仮面劇コンメディア・デッラルテの関係についておもに議論が交わされたが、仮面を使ったデモンストレーションを入れる形としたので、一般の観客にも十分興味を持ってもらうことができた。なお、高田はこの上演及びシンポジウムでの議論をふまえて新国立劇場でにおけるオペラ公演のパンフレットにオペラ・ブッフアに関する解説記事を執筆した。

このような実験的な作品を上演することによって、本学の研究活動の先進性を専門家や関係者に対して強くアピールできたものと考えている。さらに、学術面においては、音楽と演劇の関わりについて研究を進め、その成果を発表することで、本学のオペラ・演劇研究の水準の高さを示すことができた。